

焼きいも美大生がんばる！ なた漬け学ぶ簡単レシピ 今年度のせせらぎ終わる

十一月三日、今年度最後の「せせらぎ市・焼き芋&四ツ小屋さんぽ」を開催、久しぶりの晴天の下、大勢のお客さんで賑わった。

この催しは秋田市主催の「まちかどラボ」に参加した学生達など（ぶらさらぼ）が、元気づくりが運営する「せせらぎ市」をより立てようと企画していただいた。一時は地元農家から提供していただいた畑と苗で、自ら生産したサツマイモを育て無償で焼き芋にして提供していた時期もあったが、今回は元気づくりが提供した。猛暑の影響で大きすぎた物もあったが、量的には十分で、あちらこちらで美味しそうに頬張る姿が見られた。「四ツ小屋野菜」も猛暑の影響



から抜けだし、十一月にやっと秋野菜が出せるまでになってきた。



漬物講習会で、レシピをみながらメモをとる参加者

また、農家の伊藤則子さんの「おらえのがっこ」と題して漬物講習会を開催、せせらぎ市で販売し、好評だった「なた漬け」「からし漬け」の二点をレシピを交えて講義していただいた。

漬物販売は塩など一点の添加物では食品衛生法の適用外だったが、令和三年六月から「いぶりがっこ」をはじめ、同法が摘要され、同六年六月までに加工所の営業許可が必要となり厚労省等はこの間、猶予期間として許可申請を促してきた。元気づくり協議会ではこの事に着目し、農業法人等の収入源として、漬物を販売したい農家を応援し、保健所への申請補助や図面作成など支援作業の手助けを考えているが、今のところ相談などの申込みはない。

当日は他に美大生による手作りアクセサリーやフリーマーケットも同時開催され、秋の行楽的な雰囲気を出した一日となった。皆様お疲れ様でした。（英）

「せせらぎ市」けやきに行く 「四ツ小屋野菜」彩る

五月に引き続き、十月十四日（土）にも元気づくりに参加要請があり、スタッフや出店農家が四ツ小屋野菜で大いに盛り上げた。十月開催が五回目の「けやきマルシェ」は近隣の店舗や個人のお店が建ち並び、飲食店、雑貨店などの他、フラダンスサークルなどの踊りや楽器演奏も披露され秋晴れの下、和やかな交流が続いてい

た。「けやきマルシェ」は中央シルバニアエリア内にあり、御所野交流センターやふらっとけやきが主催し、入所者や地域の人々との交流を目的として始まったという。催し物には、御所野学院高、御所野小、竿燈、大道芸などが出演。皆様も時間をつくり、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

コロナ明けの秋 よつごや秋まつり2023開く

九月十日（日）、振興会主催、「よつごや秋まつり」を認定こども園よつごや（四ツ小屋幼稚園）で開催、コロナ明けの秋を楽しんだ。町内会のテントは子供向け店舗の他、飲料水などが並んだ。元気づくりは、「出張せせらぎ市」を上野町内会の軒先を借り出店し四ツ小屋野菜を販売した。当日



せせらぎ

は晴天に恵まれ、民謡歌手の田中恵さん率いるグループが民謡や歌謡曲、踊り、三味線など、四ツ小吹奏楽演奏、園児の元気溢れる遊戯が披露され、今回初出演のチー△さくらの総勢二十名を超える「ヤートセー」で締めくくった。

「市」が終わり、一息ついた。その夜、ひとり手酌で呑む酒は甘く、僕の好みでは無いような気がしてラベルを見る、なるほど。酒の味など判らない妻が誰かに勧められたらしい、「たまに日本酒が飲みたい」と、タバ話したことを思い出し目が覚めた。いつの間にか眠ってしまっていたらしい◆そういえば「せせらぎ市」を始めた頃、天候に左右されないような建物があればいいなと、図面を作り、施設を「郷里の駅」と名付け、あちらこちらで夢を語った。せせらぎ会場には野菜が溢れ、春には地域の人々がみんなで草を刈り、夏には広場で若者がキャンプを楽しみ、秋になべっこを囲む。冬は雪で迷路をつくり子供たちと遊ぶ◆この地域に興味を持ち、住みたいと思う魅力ある街並みに。それに向け武者羅に地域の形を創りだし、定着させる事ばかりを考え、この地を牽引して行くこと、元気づくりの一人よがりの夢の話だ。それでも一つずつだが、確実に夢に向かっていく。あとひとつ足りないのは、四ツ小屋を誰よりも愛しながらも無関心を装い続ける人たちの心が開く瞬間だけだ。（英）

EV. 電灯. 動力工事 設計施工

上野電気

秋田市四ツ小屋字上野50
TEL018-839-4841(FAX兼)